

# 第 85 回 近畿消化器内視鏡技師学会 プログラム

テーマ「施設における消化器内視鏡技師の役割り  
～タスクシフトシェア導入における業務の変化～」

日 時 2025年8月3日（日） 13：20開始

（受付開始 12：50より）

会 場 グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）10階

大阪市北区中之島5-3-51

TEL 06-4803-5555

主 催 一般社団法人 日本消化器内視鏡技師会

一般社団法人 近畿消化器内視鏡技師会

参加費 近畿会員 ￥4,000

非 会 員 ￥5,000

## ご注意ください

今大会は**完全事前予約制および参加費事前納入**となります。  
当日登録は行いませんので、予約なく来場されましても入場できません。  
詳細はホームページにてご確認ください。

## 第85回近畿消化器内視鏡技師学会 抄録用紙

### 当院における臨床工学科の内視鏡業務参入、経過と展望について ～タスクシフト・シェアによってもたらされる恩恵～

○中山 雄斗<sup>1)</sup>、坂口 博紀<sup>1)</sup>、鐘ヶ江 勇祐<sup>1)</sup>、山田 早悠里<sup>1)</sup>、野口 幸<sup>1)</sup>、  
川端 一美<sup>2)</sup>、西尾 昭宏<sup>2)</sup>、田辺 利朗<sup>2)</sup>、塩谷 淳<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>医療法人 康仁会 西の京病院 診療支援部 臨床工学科、<sup>2)</sup>消化器内科

#### 【緒言】

内視鏡関連機器の高度化に伴い、内視鏡領域における臨床工学技士（CE）の需要は高まっている。

当院では医師、看護師、医療クラーク、CE の多職種連携で業務を行っている。

現在 5 名の CE が内視鏡業務に従事し、うち 3 名の CE が消化器内視鏡技師の資格を有している。2017 年 8 月の CE の内視鏡業務参入から約 8 年経過した。これまでの経過と今後の展望について報告する。

#### 【経過】

CE の内視鏡業務参入以前は看護師・クラークが前処置、機器セッティング、検査記録、医師の直接介助及び外回り介助、洗浄業務、患者リカバリー、物品管理、コスト管理など内視鏡室全般の業務を行っていた。

業務参入は検査記録、機器セッティング、洗浄業務から開始し看護師、クラークとタスクシェアを行った。また、機器管理業務（点検、点検計画書作成）を新たに CE が行うようになった。スコープ故障時に故障内容を詳細にメーカーに連絡することができるようになり、初期対応が迅速になった。

現在は医師の直接介助（生検、ポリペクトミー、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、内視鏡的止血術、狭窄治療）及び外回り介助（PEG 造設・交換、EUS、ERCP）や各業務のマニュアル作成などタスクシェア・シフトの拡大を行った。

さらに、昨年までは全ての物品管理を看護師、クラークで行っていたが洗浄関連物品の管理を CE へタスクシフトを行った。

#### 【考察】

当院では年間総件数が 9000 件を超えており年々増加している。スコープの劣化が早く故障発生率が高くなるため CE による機器管理が重要であると考ええる。

また、タスクシェア・シフトにより業務の効率化を行うことは医師、その他スタッフの業務負担を軽減するだけでなく患者安全にも恩恵を与える。洗浄関連物品だけでなく処置具の管理や新規デバイスの導入検討など管理業務の新たなタスクシェア・シフトに加え、複数の医師で行っている手技の直接介助など CE が役割を代替することで医師がより手技に集中できる環境を作り質の高い医療を提供することで患者安全に繋げていきたい。

さらに、内視鏡チーム内で勉強会や急変時のシミュレーションを開催し全体のチーム力の向上に努める必要がある。

#### 【結語】

高度化する内視鏡領域において医学と工学の知識を有する CE の需要が高まっている。CE はタスクを拡大し、患者・内視鏡チームの恩恵となるようさらなる質の向上が求められる。